

# 山崎市政4期目スタート



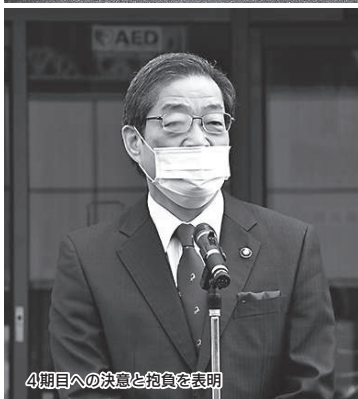
「オール綾部・チーム綾部で夢や希望を持てるまちに」と呼び掛ける山崎市長



多くの人に迎えられ初登庁



市民代表から花束を受け笑顔



4期目への決意と抱負を表明



管理職61人に訓示

任期満了に伴う綾部市長選挙で当選した山崎善也市長が2月1日、第19代綾部市長として初登庁しました。山崎市長は、多くの市民や市職員に迎えられ「初心を忘れず、綾部市がより良くなるように頑張る覚悟」と決意を語りました。

## 初心を忘れずより良い綾部に

山崎市長は、市役所玄関前に集まった市民や市職員に迎えられて登庁。4期目のスタートに当たり、次のように話しました。

「4期目の市政が始まり、うれしさ以上に身の引き締まる思いです。初心を忘れることなく、就任からずっとモットーにしていた『至誠一貫』を肝に銘じて、綾部市がより良くなるように頑張つてまいります。

早速、足元のコロナ対策やワクチン接種体制の準備に努めてまいります。同時に、感染拡大に注意しながら

らも、経済活動と社会活動の両輪を回していかなければなりません。この2年間先送りにしたJR綾部駅北側の複合施設や宮代豊里線の道路インフラなど、目白押し事業をしっかりと形にしていけることが重要です。ポストコロナ社会の中で、新しい綾部のまちづくりやデジタル化への対応、あるいは田園回帰、環境施策にも取り組む必要があります。これらを市民の皆さん、議員各位、職員と一緒に進めていく覚悟です。

にとつても、綾部市にとつても財産です。これを最大限に生かすとともに、これからどう変化していくか分からない社会において、前例もマニュアルもない中で、我々は市民のために、綾部市のために、まちづくりに精励していかなければなりません。

もちろん私も先頭に立って汗をかき、旗を振る覚悟ですが、私一人だけでは到底及ぶものではありません。皆さんの力もお借りし、オール綾部・チーム綾部で少しでも今の綾部をより良く、夢や希望を持てるまちにして、次の世代へつないでいきましょう（要旨）。

## チーム綾部で課題解決を

山崎市長は登庁式の後、市役所委員会室で職員に訓示し「本市には人

口減少や少子高齢化、過疎化など大きな課題が山積しています。これは行政だけで解決できるものではありませんが、この先もずっと取り組んでいかなければいけない課題です。一方で、コロナのように新たな課題も出てきます。これらは、今までどおりの一辺倒のやり方では解決できません。集中的に議論を重ねて、その糸口を見つけていかなければなりません。

この綾部は、その時々々の課題をオール綾部・チーム綾部で先人たちの知恵でもって解決して、今があります。そのチーム綾部の核になるのは、今ここにいる皆さんです。より良い綾部を次の世代につなぐために、一緒に頑張っていきましょう」と述べました。

## 開票結果

市長選挙は、1月16日に告示。現職の山崎善也氏と新人の吉崎篤子氏が立候補しました。投票は23日に市内40か所で行われ、即日開票の結果、山崎氏が4期目の当選を果たしました。

当日の有権者数は2万7445人で、投票者数は1万2363人（う

ち、期日前投票は3589人）でした。投票率は前回市長選（46・28）より1・23ポイント少ない45・05％となりました。

市選挙管理委員会発表の開票結果は次の通りです（敬称略）。

山崎善也 9816票  
吉崎篤子 2430票

# 消防団員に聞く



東八田分団 庶務部長  
佐々木大輔さん (安国寺町)

交代勤務の仕事をしていますが、仕事の都合のつくときに無理なく活動を続けられています。火災や台風などで出動したときの、地域の人からの「ありがとう」の言葉が活動の励みです。また、消防団活動を通し

て築いた人とのつながりも、大きな財産となっています。平成30年7月豪雨では、管内で土砂崩れが発生。災害の恐ろしさと防火防災の重要性を改めて感じました。現在はコロナ禍ですが、いざというときに地域の安全が守れるよう、今できることを着実に積み重ね、迅速な行動につなげていきます。

## ありがとうの言葉が励みに



シルキーファイヤー(女性消防団)  
野口一菜さん (高津町)

女性消防団が発足すると聞き、微力でも役に立てるならと入団しました。入団当時は子育ての真っただ中でしたが、無理のない範囲で参加でき、現在まで続けられています。消防団は男性の消火活動のイメー

ジがありますが、女性だからこそできることがあります。私たちの主な活動は、火災予防の広報。高齢者宅の防火訪問や街頭啓発などを行っており、話しやすい・親しみやすいという声もいただいています。今後も、市民の防災意識を高められるよう活動していきたいです。興味のある人は、ぜひ一緒に活動しましょう。

## 無理せず家庭や仕事と両立できる



ラッパ隊  
梅原来海さん (梅迫町)

消防団は忙しそう、大変そうだというイメージがありました。しかし、ラッパ隊の活動なら私にもできると思い、新しいことに挑戦しようという決意。楽器演奏の経験はありませんでした。優しく教えていただ

き、練習を頑張っています。ラッパ隊の練習のほかにも、消火訓練や救命講習などにも参加し、自分自身の防災意識を高めています。入団してよかったのは、多くの人と話す機会が増えたこと。また、出初式などの地域行事に参加し、地域とのつながりを持つきっかけにもなりました。

## 人との関わりが増えた



消防団は、各市町村に設置されている消防機関。団員は本業を持ちながら、地域の安全と安心を守るために活動しています。近年、全国的に消防団員数が減り、地域の防災力の低下が課題となっています。安全・安心のまちづくりのため、あなたの力を消防団で生かしませんか。

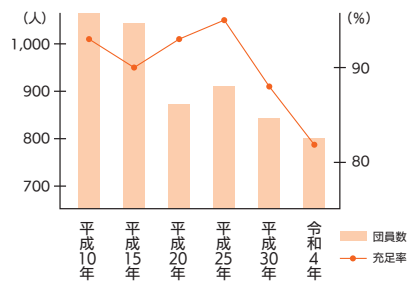
# 安全・安心のまちを自分たちで守る

# あなたの力を消防団に

### 団員数が年々減少

市消防団(白波瀬博之団長)は現在、11分団に799人が所属しています。本市においても、団員の確保は大きな課題。約20年前には1000人以上いた団員も年々減少し、充足率は現在83%です。左グラフ。消防団員減少の背景には、人口減少▽少子高齢化▽雇用体系の変化―など、さまざまな要因が考えられます。

### 消防団員数と充足率の変化



**手当増額など施策展開**  
市消防本部は団員確保のため、さまざまな施策を展開しています。従業員の消防団活動に配慮するなどして、事業所を「消防団協力事業所」として認定。被用者が団員として活動しやすい環境づくりに取り組んでいます。また、平成29年4月に、府内で初めての制度「消防団応援の店」を創設。店のご厚意で消防団員にさまざまな特典を付与するもので、地域ぐるみで消防団を応援しています。さらに本年4月1日から、出動手当等を引き上げます。

### できる人ができる活動

消防団の活動は「忙しそう」「自分にはできない」などのイメージで敬遠されがちです。しかし実際は、全ての活動に参加できない人ができる範囲で活動する「機能別団員」▽特殊な技術や資格が生かせる「ハイパー消防団員」▽防火広報等を担う「女性消防団員」―など、さまざまな人が活躍しています。地域と顔の見える関係が築ける消防団員は、地域防災の要。活動に興味のある人は、一度お問い合わせください。詳しくは、各分団か消防本部(42)0119へ。



### ■入団資格

市内在住か在勤の18歳以上の人なら、誰でも入団できます。

重機の操縦や電気工事士など、専門的な技術や資格がある団員。災害現場で特殊な機材等が必要になったときに活動する、全国的にも珍しい制度です。

### ハイパー消防団員



### シルキーファイヤー

女性の消防団。街頭啓発や幼稚園・保育園等での防火教室などを行っています。

イベントや訓練時にラッパを吹鳴し、より一層の防火意識の高揚を訴えることを目的に活動しています。

### ラッパ隊

